

新型コロナウイルス感染拡大状況一覧表の取り扱いについて

本データは、ジョンズホプキンス大学データ、World Meter、国連統計、World Bank、ScienceDirect、CIA Factbook、GPI 指数ランキングより抽出しており、当社独自のデータではございません。

従って、当社は、本データに関し、いかなる理由があっても一切責任を負いませんので、ご了承ください。

また、使用用途は自社内での参考データとしての活用のみとし、第三者への提供、販売等の行為を一切禁止いたします。

先般ご案内の通り、上記内容に同意いただいた契約企業様に対し、6～7月の統計データを無償提供いたします。

※7月の統計データは15日を予定しています。

注意事項

本データは再赴任等における判断基準の一つとして提供するもので、活用方法などは各社で設定いただく必要があります。

アメリカ、ロシア、インドなどの国土が広い国では、国単体ではなく、都市ごとに判断する必要があります。

但し、医療水準指標や社会・治安安定性指標などは、都市ごとの情報が公開されていません。

全体の見方（あくまでも一例として。活用方法、判断基準は自社で行ってください。）

日本と渡航国の差を比較する方法が、社員も納得しやすいようです。

但し、感染状況の数値では、多くの国が日本より危険性が高いため、医療水準指標や社会・治安安定性指標も活用、

比較しなくてははいけません。どの程度の差であれば、再赴任を認めるかという基準は、自社で決める必要があります。

再赴任の判断基準（重要度順に）

1. 外務省渡航禁止レベル：レベル3以上は実質中止
2. 航空会社のフライト状況：正常に戻っているか
3. コロナによる死者数が増加していないこと
4. 緊急アシスタンス（搬送）会社が対応している国か？

感染状況の見方

感染者数はPCR検査を受けて、陽性反応が出た人の数。→隠れコロナなどが存在し、正確性は低いと判断。

従って、「死者数」がポイントとなります。

医療水準指標の見方

ポイントは「重症者数」と「ICUベッド数」となります。

→感染後に重症化した場合、ICUで適切な処置を行えるかが重要な問題です。

社会・治安安定性指標の見方

ポイントは「ジニ係数（暴動発生率）」と「殺人発生率」となります。

この数値が高い国は、元々治安が悪いと判断できるため、コロナ禍で経済が破綻する（した）場合は、さらに治安が悪化することが容易に想像できるため、通常時よりも注意が必要です。